

プレス空知 2020年5月 「旅するピアニスト」 深井尚子

全国的に新型コロナも終息にむかっているような雰囲気になってきました。長い自粛生活に疲れも出てきていますが、みんなでもう少し、頑張りましょう。

さて、今日は、私がロンドンに留学中に、イタリアのカプリ島で行われた、ピアノコンクールのお話をします。当時、ウィーンの友人のピアニストもそのコンクールを受けるとのことで、私はロンドンから、彼女はウィーンから、まず、ナポリで落ち合い、そこから一緒にカプリに行く予定でした。カプリ島は、南イタリアの風光明媚でハリウッドスターたちの避暑地などといわれ、おしゃれで洗練されたリゾートの島です。地理的には、ナポリから南に30Kmにある小さな島で、青の洞窟が特に有名です。そのようなところで、コンクールなんて少々無粋ですが（笑）、観光気分も半分ありつつ、受けることにしました。

私は、ロンドンから飛行機で、友人は、ウィーンから、なんと10時間かけて鉄道で来るということで、ナポリの船着場で会う約束をしていました。カプリ島には、ナポリから高速船で30分くらいなのです。私の飛行機は、とても順調にナポリに着き、友人を待っていましたが、ウィーンからの列車が遅れているらしく、1時間以上待っても列車は到着しません。駅員さんと話したところ、ウィーンからの列車は、5時間遅れているということで、啞然としていると、友人の名前は何か？と訊かれ「○○○○」です。とつい本当の名前を告げてしまいました。すると、駅員さんは、ナポリ駅に放送をかけてくれて、「○○○○」さんはいますか？居たら、正面口に来てください。と大音量でアナウンスされました。しかし、やはり、彼女は着いておらず、私は、5時間も待てないと思い、一人で、ナポリから船に乗り、カプリに向かいました。

その後、夕方になって彼女は、カプリに到着して再会できたのですが、なんと、ナポリの駅で、「あなたは、○○○○か？」と駅員に訊かれあなたの友人がこのタクシーで来るように言っていた。」といわれて、そのタクシーに乗ったら、なんと白タクで、かなりの料金を請求されたそうです。当時は携帯電話もなく、また、南イタリアの治安の悪さも有名でしたのに、私がかつにも、名前を告げてしまったため、友人は、南イタリアのずるいタクシーに引っかけられてしまいました。日本は、本当に安全でまじめな国で、治安もよく、安心して旅ができますが、南イタリアは、少々、気をつけなければなりません。

そんなこともありましたが、私たちはコンクールも2次試験で敗退し、その後、カプリの美しい海岸を散歩したり、素敵なレストランでお食事を楽しんできましたので、よい思い出になりました。ナポリは、ポンペイ遺跡やベスビオ火山があり、歴史を感じる街でしたが、港町でもあり、ちょっと不安感が漂う雰囲気でした。